

令和4年度

# 事業計画書

学校法人 常葉大学

# 目 次

1. はじめに .....	1
2. 重点事業計画 .....	2
3. 管理・運営計画 .....	3
4. 財務計画 .....	5
5. 施設・設備整備計画 .....	6
6. 教育活動計画 .....	7

# 1. はじめに

理事長 木 宮 健 二

学校法人のガバナンス機能の強化策を検討するために文科省が設置した有識者会議「学校法人ガバナンス会議」は、昨年暮れ、現行制度を大幅に改め、学外者で組織する評議員会を意思決定機関とする改革案をとりまとめました。しかし、この会議のメンバーには学校法人の実情を知悉する私学関係者がほとんど含まれておらず、しかも私学の独自性と教育の公共性とを担保する私立学校法の視点からは欠け落ちた内容であったことから、多くの私学関係者から疑念と反発の声が上がったのは記憶に新しいところです。こうした批判を受け、文科省は、今年に入り私学関係者を含めた新たな有識者会議「学校法人制度改革特別委員会」を立ち上げ、改めて学校法人の設立の経緯や運営の実情を踏まえたガバナンス改革を検討することになりました。学校法人におけるガバナンス改革の重要性について意を同じくする立場の者として、新たに発足した有識者会議において、誰もが納得できる真の改革案が提示されることを心から期待しているところです。

なお、本法人におきましては、昨年10月に「常葉大学・常葉大学短期大学部ガバナンス・コード」を策定しております。これは、高い公共性を有する高等教育機関の設置主体として本法人が果たすべき社会的責任を担うとともに、ガバナンスの確保と強化を図るための措置です。今後も適宜ガバナンス改革を行い、公益法人としての使命を果たしていく所存です。

一方、高等学校におきましては、指導要領の改訂が移行期間を経て今年4月から施行されます。この改訂に伴い、附属高校各校では改訂の趣旨及び「教育再生実行会議」の提言を反映した新たな教育課程を編成しました。また、この度の改訂の特徴として、大学入学者選抜における高大接続を基本とした一体的改革があります。この方針に対応すべく、本法人では全国に先駆けて対応策を講じ、昨年4月から常葉大学・短大部と附属高校との「附属高校総合能力入試」制度を導入し、常葉大学・短大部での学びを希望する附属高校の生徒が進学しやすい環境を構築しております。

さて、コロナ禍は3年目に入り、あらゆる社会活動に悪影響を及ぼしております。本法人の対応といたしましては、昨年8月、常葉大学が保有する4キャンパスのうち、静岡草薙と浜松の2つのキャンパスにおきまして、本法人が有するマンパワーを活用して新型コロナワクチンの拠点(集団)接種を実施しました。接種対象者は、本法人が設置する学校の学生、生徒及び教職員にとどまらず、4キャンパス近隣の公立、私立、特別支援学校の教職員も含め14,400件ほどの接種を行い、いささかなりとも地域貢献・社会貢献に資することができたのではないかと自負しております。

こうしたコロナ禍の影響は、婚姻数の減少と出生率の低下により少子化に拍車をかける結果となり、令和22年には全国の18歳人口が88万人まで減少するとの予測が出されています。静岡県におきましては、少子化に加え大学進学に伴う18歳人口の県外流出への対応が長年の懸案事項となっております。特色ある高等教育の機会を提供し、地域に定着して活躍する有為な人材を輩出する本法人の役割は極めて重要であると承知しております。幸い、常葉大学・短大部の学生の9割以上が静岡県内出身者で占められ、卒業生の8割以上が県内で就職するという良いサイクルが続いています。こうした優れた循環を着実に継続することを通じて、地域の活性化に貢献できればと願っております。

## 2. 重点事業計画

本法人における重点事業計画は、私立学校及び本法人を取り巻く現況を的確に分析して、設置する各学校が、それぞれの持つ個性や特色を最大限生かした教育事業及びこれに附随する事業を推進するため、長期ビジョン『地域と連携し、地域創生に貢献する』及び第2期中期計画（実施年度：令和3年度～令和7年度）との整合性にも十分配慮しながら策定したものです。

令和4年度におきましては、大学・短期大学と附属高校との高大接続教育のより一層の推進を図り、附属高校の生徒を対象とした新たな入試制度である「附属高校総合能力入試」の実施、大学における収容定員の見直しと学部再編計画の推進を含む下記の5つの重点事業計画を着実に実行していくこととします。

- (1) 大学・短期大学と附属高校との高大接続教育の推進及び新たな入試制度の実施
- (2) 大学における収容定員の見直し及び学部再編計画の推進
- (3) 附属小学校、附属中学校及び附属高校における定員確保のための募集活動の強化
- (4) 事務の電子決裁システム等のDX化\*導入計画の推進
- (5) ウイズ/ポストコロナ社会における地域貢献活動の推進

\*DX化

「DX」はDigital Transformationの略語。データ及びデジタル技術を活用して業務自体または組織、プロセスを変革すること。デジタル技術の活用が単なる業務効率化やコスト削減に留まらない点が、IT化とは異なる。

## 3. 管理・運営計画

### (1) ガバナンス機能の強化と規程体系の再構築

今日の学校法人には、公正性と透明性の高いガバナンスの実践が求められており、加えて令和3年度に策定した本法人の中期計画におきましては、「法人規程の再構築」が重要項目の一つとして盛り込まれております。

本法人におきましては、適切なガバナンスに基づいた法人運営を実践するため、これまでも本法人の諸規程が現行の社会ルールに合致しているかどうかを検証し、令和元年度は寄附行為の一部改正、令和2年度は管理規則の廃止に伴う関係諸規程の整備、令和3年度は文書表簿規程の全面改正等、必要に応じて規程体系の再構築を進めてまいりました。そして、令和4年度におきましては、諸規程の制定及び改廃に関わる手続き等のあり方について検証を進めることといたします。

また、特にコンプライアンスを遵守する観点からは、積極的な情報公開も求められております。本法人といたしましては、財務情報に限定していたこれまでの閲覧制度を見直し、情報の透明性を高めるため広く法人が保有する情報を公開するための新たな情報公開制度を創設して、社会のニーズに対応するとともに、ユーザー視点に立った検索しやすく、読みやすいホームページづくりに配慮する等、法人情報の積極的な公開に努めてまいります。

### (2) 働き方改革の推進及び人事制度の再構築

本法人における働き方改革の推進につきましては、他の職種に先駆けて、大学・短期大学の教育職員を対象とした専門業務型裁量労働制を導入しておりますが、当該事業の一環といたしまして、令和4年度からは中学・高等学校の教育職員を対象に1年単位の変形労働時間制度を導入することといたします。

このほか、他の学校法人、地方自治体及び民間企業が導入している先行事例や現行の人事制度の問題点を踏まえ、事務職員が複数のキャリアパスを選択することができる柔軟な複線型人事制度の具体的な設計、再構築に着手します。

### (3) 自己点検・評価、認証評価、第三者評価、学校評価の推進

法人内各校（園）は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため

に教育研究活動等の状況について自己点検・評価、認証評価、第三者評価及び学校評価を行い、教育研究活動の継続的な質の保証を図るとともに、自主的な改革・改善に引き続き取り組んでまいります。

#### (4) 監査機能の強化

監査については、監事、会計監査人（監査法人）、内部監査担当部門（監査部）がそれぞれの立場や観点からチェックを行う三様監査を実施しております。今後とも、本法人の発展と社会的信頼の保持のため、監査体制、監査計画等の改善に努めるとともに、三者の連携強化を図り、監査の質の向上と効率化を推進してまいります。

## 4. 財務計画

少子化の進展、進学率の頭打ち等、学校法人にとって経営環境は厳しさを増しております。

こうした状況下においても、充実した教育研究活動等を担保するため、財務体質の健全化にこれまで以上に積極的に取り組んでまいります。永続的な経営を確立するため、以下の施策を進めることといたします。

### (1) 財務基盤の強化

施設・設備を効率的に運用し、事業活動収入と支出の均衡を図りつつ、基本金組入前当年度収支差額を増加することにより金融資産を積み上げ、充実した教育研究活動を支えるための強固な財務基盤を構築してまいります。

また、将来の施設・設備整備計画に柔軟に対応するため、引き続き減価償却引当特定資産の積立を行ってまいります。

併せて、資金運用規程に基づき、適切かつ安全な資金運用を行い、運用益を確保してまいります。

### (2) 事業の効率的執行と経費の削減

教育研究経費及び管理経費については、事業別予算制度をもとに、事業執行の前段階においても慎重に精査の上、実施しております。

限りある予算を有効活用するため、既存事業の検証及び抜本的見直しなどを行い、引き続き事業の効率的執行と経費の節減に努めてまいります。

## 5. 施設・設備整備計画

学校施設は、学生・生徒・児童・園児が学習と生活の場として一日の大半を過ごす重要な場所であるばかりか、災害時には近隣住民の緊急避難先にもなる重要な施設としての性格も併せ持ちます。したがって、通常時や緊急時においても安心・安全な施設としての機能を維持することを最優先するとともに、急速な少子化や情報化社会の進展など、様々な社会環境の変化に的確に対応できるよう計画的な整備を進めてまいります。

### ○ 令和4年度大型事業

#### (1) 菊川高等学校校舎等改築事業

- \* 体育館棟改築                    <令和4年4月完成予定>
- \* 美術棟解体                    <令和4年10月完了予定>
- \* 外構工事                        <令和5年3月完了予定>
- \* 体育館棟備品購入

#### (2) ICT（情報通信技術）教育設備整備推進事業

- \* 常葉大学静岡草薙キャンパス 無線 LAN 環境拡充事業
- \* 常葉大学静岡瀬名キャンパス 無線 LAN 環境拡充事業
- \* 常葉大学静岡水落キャンパス 無線 LAN 環境拡充事業（本館・1号館）
- \* 常葉大学浜松キャンパス        学内ネットワーク機器更新事業



## 6. 教育活動計画

教育は、あらゆる社会システムの基盤です。特に資源に乏しいわが国にあっては人材こそ財産であり、次世代を担う人間を育てる教育事業は、国の最も重要な施策であると言っても過言ではありません。

本法人におきましては、建学の精神や教育理念に則った特色ある教育研究活動を実践しつつ、コロナ禍にあっても社会や時代の要請に対応した新たな教育研究に取り組むことによって理解と評価を得て、さらに安定した教学運営を行うことを目指しています。令和4年度は、第2期中期計画における教育活動の実施状況を踏まえながら、以下に掲げる計画を中心に推進します。

### ○ 大学・大学院、短期大学

#### 〈常葉大学・大学院〉

#### 1. 教育力の向上と学生支援の強化

- (1) IR の整備に向けて各種データを収集するとともに、教学マネジメント指針に沿って「学修者本位の教育」に向けて教育改革を推進します。
- (2) 教育力向上に向けた定例の全学 FD・SD 研修会を継続して実施するとともに、学部・学科等の FD・SD 研修会を強化します。
- (3) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図るために、教学にかかわる委員会へ学生の参加を求め、教職員と学生の協働を進めます。
- (4) 人生100年時代あるいは Society 5.0、さらにはウィズ/ポスト・コロナといった予測困難な時代を見据えたキャリア支援教育を推進します。

#### 2. 研究の推進

- (1) 外部資金の獲得に向け、募集要項の周知法や研究支援策を改善して、取組みの強化を継続します。
- (2) 学内研究者間の情報交換会を開催し、研究者間交流を促進します。

#### 3. 高大連携の推進と学生募集の強化

- (1) 附属高校総合能力入試の実施を通して、高大接続教育を推進します。

(2) 18歳人口の減少に対応した学生確保対策として、特色ある学部教育をより一層推進してまいります。

#### 4. 地域貢献活動及び同窓会との連携活動の充実

- (1) 地域貢献センターを中心に、教育研究の成果を公開講座等で地域へ還元します。
- (2) ホームカミングデー等の行事を通して、卒業生と在学生との交流を促します。

#### 5. 業務運営等の充実及び改善

- (1) 教職協働及び連携を強化するためにFD・SD研修会を継続します。
- (2) 改定された組織規程に基づき、指示系統に沿った組織運営を確立します。

### 〈常葉大学短期大学部〉

#### 1. 自己点検・評価体制の充実

- (1) 自己点検・評価を受けてのPDCAサイクルを回せるFD・SD活動を推進します。

#### 2. 学生支援体制の充実

- (1) 「主役は学生プロジェクト」の定着を図るために、学生と教職員の懇談会を開催して学生の満足度をさらに高めます。
- (2) ウィズ/ポスト・コロナ社会に対応したキャリア支援教育を推進します。

#### 3. 教育研究活動の推進

- (1) 学習成果測定方法の見直しを行い、教育の質向上を目指した改善を行います。
- (2) 大学で実施される学内研究者間の情報交換会に参加するとともに、短大部内の研究者間交流を促進します。

#### 4. 学生募集の強化と高大連携の推進

- (1) 定員管理に留意し、減少に転じた18歳人口に対応した学生確保対策を推進します。
- (2) 新たに導入した附属高校総合能力入試制度を実施し、附属高校との連携の更なる実質化を図ります。

## 5. 地域貢献活動及び同窓会との連携活動の充実

- (1) 地域貢献センターを中心に、教育研究の成果を公開講座等で地域へ還元していきます。
- (2) ホームカミングデー等の行事を通して、卒業生と在学生との交流を促します。

## 6. 業務運営等の充実及び改善

- (1) 教職協働及び連携を強化するためにFD・SD研修会を継続します。
- (2) 改定された組織規程に基づき、指示系統に沿った組織運営を確立します。

## ○ 高等学校、中学校

### 〈常葉大学附属常葉中学校・高等学校〉

#### 1. 学習指導

- (1) 思考力や問題解決力、表現力などを育む授業の工夫と、ICTを有効活用した授業改善に取り組みます。
- (2) 基礎学力の定着と学習習慣を確立する仕組みを築きます。

#### 2. 進路指導

- (1) コース・系列の特色に合った有効な進路情報の提供を行います。
- (2) 常葉大学・常葉大学短期大学部への進学指導の充実を図ります。

#### 3. 生活指導

- (1) 生徒の社会性や自律心を養います。
- (2) 生徒が主体的に活躍できる場を提供し、学校生活に充実感や満足感を持つよう指導します。

#### 4. 教員の教育力強化

- (1) 教員の授業力向上のための研修会や、日常的な相互の授業参観を実施します。
- (2) 教員の生徒指導力向上のための研修会や、定例会議等を活用した相互の情報交換の場を設けます。

## 5. 保護者・卒業生・地域との連携

- (1) PTA、母の会、同窓会、卒業生父母の会に様々な情報発信をし、協力体制を整えます。
- (2) 生徒、保護者、同窓生、地域から信頼される学校づくりを推進します。

## 6. 生徒募集

- (1) 本校の教育活動や生徒指導の魅力を十分に理解していただけるような説明会・体験会を実施します。
- (2) ホームページやSNS を利活用して本校の魅力を発信していきます。

## 7. 組織の活性化

- (1) 組織を柔軟に編成し、チームで問題解決に当たる体制を整えます。
- (2) 方針の明確化により教職員のベクトルを合わせ、効果的に教育活動を行います。

## 8. 中高一貫教育

- (1) 実学を基軸とした中高6年間の進路指導を行います。
- (2) 学習指導における本校独自の中高6年間教育のメリットを築きます。

## 9. 常葉大学・短大部との高大接続教育

- (1) 連携講座による高大連携を更に発展させ、本校の実学教育の充実を図ります。
- (2) 水落 One Campus 構想を一層推進し、本校独自の魅力を構築します。

### 〈常葉大学附属橘中学校・高等学校〉

#### 1. 学習指導

- (1) 基礎学習を徹底させた上で、教科横断型の教育を推進します。
- (2) カリキュラム改訂に伴い、問題解決型学習に力を入れ、探求型学習を推進します。
- (3) ICT を積極的に取り入れ、生徒自身の個別の学びを実践させていきます。
- (4) 観点別評価の導入も含めて、新学習指導要領へ対応するための変革を図っていきます。

## 2. 進路指導

- (1) 職業別や系統別ガイダンス等を実施し、2年次に向けた適切な進路選択ができる機会を継続していきます。
- (2) 附属高校総合能力入試に備えるため、1年次より「学びに対する広さ」を涵養していきます。
- (3) 英数科の進路実績を高めるために、チームを組んで検討していきます。

## 3. 生活指導

- (1) 規律の順守や友愛を感じることでできる生徒を育てていきます。
- (2) 生徒自らが考える、生活指導に変化させていきます。

## 4. 教員の教育力強化

- (1) ICT 教育機器使用のスキル向上のための研修を今後も継続的に実施していきます。
- (2) 外部企業とタイアップして教員研修（橘研修）を実施していきます。

## 5. 保護者・卒業生・地域との連携

- (1) 静岡市と SDGs 共同宣言校として、社会的課題の発見や視点を深めていきます。
- (2) 文科省認定の地域協働推進校として、地域の企業と今後も連携性を深めていきます。

## 6. 生徒募集

- (1) 3年連続の定員確保に向けての戦略を早期から検討していきます。
- (2) ホームページや SNS を利用した募集戦略を強化していきます。

## 7. 組織の活性化

- (1) 学校改革推進部と教育開発部を中心に、橘の「新しい教育」を推進します。
- (2) 働き方改革を視野に入れ、組織として質の高い勤務体制を目指します。

## 8. 中高一貫教育

- (1) 中学3年間の iPad の使用経験を高校に繋げ、ツールとしての更なる効果を目指します。

(2) 中高6年間の様々な進路目標に対応できる学力の養成を図ります。

## 9. 常葉大学・短大部との高大接続教育

(1) 高大連携教育の中身を精査し、より実践的なものに発展させていきます。

(2) 大学生との交流等を深め、将来の視野を広げるような取組みを目指します。

### 〈常葉大学附属菊川中学校・高等学校〉

#### 1. 学習指導

(1) 探求学習において課題による問題分析力や解決力を養います。

(2) 知的好奇心を育む授業展開の充実を目指します。

(3) 基礎知識を身に付け融合させ、多面的な思考力を育みます。

(4) ICTを活用した教育活動の充実を図り Society5.0 での礎を築きます。

#### 2. 進路指導

(1) 生徒一人ひとりに合わせたきめ細かな進路指導、学習指導、生活面のサポートに努めます。

(2) 各科・コースが求める教育目標に合わせた特色を持たせた教育を行います。

(3) 学生・社会人の卒業生と連携したキャリアデザイン教育を行います。

#### 3. 生活指導

(1) 部活動を通し社会性の育成に努めます。

(2) ボランティア活動への積極的な参加により、地域社会への貢献に対する意識を高めます。

#### 4. 教員の教育力強化

(1) 校内研修会等で個人のスキルを多くの教員へ紹介し、ICT教育や教授法等の教育力向上を図ります。

(2) 授業アンケートによる振り返りを行い、授業の改善と向上に努めます。

## 5. 保護者・卒業生・地域との連携

- (1) 菊川市とのフレンドシップ協定「みらい学」の地域探求学を通して、問題解決力を養い自らのキャリアデザインに役立て、社会への帰属や地域貢献に努めます。
- (2) PTA、同窓会、後援会との共同活動を通して絆を深めます。
- (3) 卒業生（学生・社会人）との連携を深め、在校生への教育活動の一助とします。

## 6. 生徒募集

- (1) 本校の教育内容を説明会等で伝え、多くの受験生と保護者に広めます。
- (2) 生徒・保護者に本校の特色教育を提供し、その魅力を多くの方に広めます。
- (3) 3カ年、6カ年の教育内容を充実させ、その魅力を多くの方々に広めます。

## 7. 組織の活性化

- (1) 各科・コースの行事を共同し、互いに刺激し合い変化します。

## 8. 中高一貫教育

- (1) 中高6カ年の教育活動を通して生徒一人ひとりの成長に繋がります。
- (2) 少人数教育による学習成果で、より高きを目指して一人ひとりの進路目標の達成に努めます。

## 9. 常葉大学・短大部との高大接続教育

- (1) 進路の時間でキャリアデザインを行い、常葉大学・短大部における学びを知る機会を増やします。
- (2) 探求学、みらい学における問題の分析や解決に大学の教育力を活用し連携を深めます。

## ○ 小学校、こども園

### 〈常葉大学教育学部附属橘小学校〉

#### 1. 生きる力を身につけた児童の育成

- (1) 高学年の教科担任制について、具体的にどのような教科が適当か検討します。
- (2) コロナ禍であるが、感染状況に応じ適切な措置を取り体験活動や体育的行事等を通して

たくましい心身を育成します。

(3) 本校伝統の教育方針である「三方よし」(自分よし・相手よし・みんなよし)の精神を  
継続し豊かな心を育成します。

(4) 英語学習、オーケストラ学習、ICT を活用した教育、日本文化教育等のさらなる充実に  
より、これからの社会を生き抜く資質・能力を高めます。

## 2. 小中一貫教育の検討

(1) 小学校と中学校の教育目標内容を突き合わせ、具体的にどの部分で連携できるのか検討  
し、小中9年間あるいは小中高12年間のカリキュラムを作成します。

(2) 授業、研究会、行事等で教員の交流を図ります。

(3) 児童、保護者のニーズをつかみ、法人内の学校に進学するメリットを伝えます。

## 3. 幼小の連携

(1) 小学校1、2年生の生活科の授業の中で、とこは幼稚園、たちばな幼稚園と交流するこ  
とにより、園児は小学校を身近なものと感じ入学への期待を持てるようにし、児童は人の  
ために何かすることを通して自分の成長を感じるようにします。

(2) 授業や保育を互いに参観することにより、それぞれの教育、保育について理解を深めま  
す。

## 4. 常葉大学との連携

(1) 教育学部附属の研究実践校として、教育学部と連携し質の高い先進的な教育実践を行  
います。

(2) 常葉大学・大学院の実習を「教育の質の充実」という観点でもとらえ、日常化を図りま  
す。

## 5. 教員の資質向上

(1) ICT を活用した教育を推進し、授業力の向上を図ります。

(2) 多様な成長への対応を充実させます。



## 6. 児童募集

- (1) 本校の魅力をも十分に理解してもらえる説明会・体験会の実施を通じて、安定的な児童確保に努めます。

### 〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属とこは幼稚園〉

#### 1. 子どもの健康・安全の確保

- (1) 0歳児から5歳児がそれぞれの年齢発達に応じて、心身ともに伸び伸びと、安心して活動できる教育的環境の設定に努めます。
- (2) 手洗いや消毒、換気など、感染症の集団発生予防に努めます。
- (3) 保護者や関係者等と連携し、食育の充実を図ります。また、食物アレルギーや誤嚥事故防止など、個々への対応にも細心の注意を払います。

#### 2. 充実した保育・教育活動の実施

- (1) 園児の能動的・主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開される保育を行います。
- (2) 近隣の自然に触れ、季節を感じ、感性豊かな子どもの育成を目指します。
- (3) 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を園児の育ちの視点とし、PDCAサイクルでの保育振返りを積極的に取り入れ、保育の質を高めます。

#### 3. 園行事の柔軟な実施

- (1) 園児の育ちに応じた園行事の計画を立て、無理なく実施します。
- (2) 園行事を通して、とこは幼稚園の保育を保護者に理解してもらいます。また、親子で参加することで、親子の愛着形成の重要性を理解してもらいます。
- (3) 様々な立場の保護者が、園での子どもの様子を参観しやすくなるよう、行事や活動によってオンラインを利用します。また、行事に向けて試行錯誤する子ども達の姿を、取り組み過程としてドキュメンテーションで伝えます。

#### 4. 常葉大学・短大部及び附属橘小学校との連携

- (1) 附属幼稚園として、学生の教育・保育実習や多様な研究協力の場を提供します。

(2) 常葉大学・短大部との連携を図りながら子どもの多様性を受け止め、『子どもが真ん中である認定こども園』の研修を深めます。

(3) 幼小の円滑な接続の推進・連携として、園児、児童の交流活動を継続的に取組みます。  
また、教員間の研修を通し、発達や学びの連続性について理解を更に深めます。

#### 5. 職員及び職員組織の力量の向上

(1) 職員一人ひとりの資質向上となる研修への参加、園内研修の充実を図ります。

(2) 0歳児から就学前の幼児まで、子どもの育ちを追った研修を通し、質の高い保育につなげます。

(3) ICTを上手に取り入れ、時間を工夫して使う中で、保育を可視化し、次の保育につなげる記録の録り方を工夫します。

#### 6. 園児募集

(1) 未就園児親子を対象とした遊びの会や園庭開放を設定し、誰でも気軽に参加できる機会を設けます。また、未就園児親子が、幼稚園児の普段の生活の様子や夢中になって遊んでいる姿を見たり、触れたりできる機会を設け、とこは幼稚園の良さを知っていただく機会を作ります。

(2) 感染症対策を講じた上で、子育てサロン等を実施し、地域の子育て世代の保護者が気軽に相談できる機会を設けます。

(3) ホームページを十分活用したり、近隣地域との交流を通し、とこは幼稚園の良さを幅広くPRします。

#### 〈幼保連携型認定こども園常葉大学附属たちばな幼稚園〉

##### 1. 子どもの健康・安全の確保

(1) 子ども一人ひとりの健康状況の把握と、職員間での適切な情報共有を継続して実施します。

(2) 子どもが安全に過ごせる園の環境づくりを促進します。

## 2. 適切で充実した保育・教育活動の実施

- (1) 教育要領、保育指針、指導要領で示される「資質・能力の三つの柱」と、その具体的目標である「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭においた質の高い保育・教育を進めます。
- (2) 遊びを主とした子どもの主体的な取組みを促す環境づくりを推進します。
- (3) 主旨や目的を明確にした子どもの充実感や達成感を育む活動の計画・実施を図ります。
- (4) 感染症等の社会状況の変化を踏まえた適切な対応を継続します。

## 3. 連携

- (1) 常葉大学・短大部及び附属学校各校（園）との研究協力、実習協力、交流等について、附属園としての役割遂行に努めます。
- (2) ホームページを更新するなど、保護者支援や地域への情報発信を推進します。

## 4. 職員及び職員組織の力量の向上

- (1) 職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取組みを促進します。
- (2) OJT による日常的な研鑽を意識した力量の向上を促進します。

## 5. 園児募集

- (1) 未就園児教室の開催、個別面談、入園説明会の実施や、ホームページを活用した本園に対する理解の深化を図ります。

### ○ 附随事業

#### 〈常葉大学リハビリテーション病院〉

### 1. 医療従事者等養成校との連携

- (1) 学校教育における臨床実習施設としてふさわしい受け入れ態勢を維持するとともに医療従事者等養成校との連携をより一層深めることを通じて、優れた医療従事者等の養成に貢献してまいります。

## 2. 組織の活性化

- (1) 安全で適切な医療提供体制を確保し、安定した病院運営を遂行していくために、医師、看護師等医療従事者のマンパワーの充実を図ります。
- (2) 国の施策や定期的な診療・介護報酬改定の内容を踏まえ、時代の要請に応じた適切な医療体制を構築します。
- (3) 回復期リハビリテーション病棟を有する病院として、24時間365日充実したチーム医療を提供できるよう、施設・設備の整備計画を策定し、計画的な整備を行います。